

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議 第1回会議 議事録

日 時 平成 30 年 7 月 25 日 (水) 13 : 45 ~ 15 : 10

場 所 愛知県議会議事堂 1 階ラウンジ

参加者 【委員】

昇秀樹 委員 (座長)、森浩英 委員、來田享子 委員、吉田沙保里 委員、川原三男 委員
松下浩二 委員 (欠席)、田中豊 委員 (欠席)

配布資料 資料 1 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンの策定について

資料 2 アジア競技大会の概要について

資料 3 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン骨子 (案)

資料 4 愛知県の SWOT 分析

資料 5 2026 年アジア競技大会までの主なできごと

参考資料 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議開催要綱

1 あいさつ

- 大村知事
- ・第 20 回アジア競技大会は、現在、選手村の計画や競技別の会場等について着々と調整を進めている。今年、8 月 16 日からジャカルタ・パレンバンでアジア競技大会が行われる予定であり、19 日にOCA (アジア・オリンピック評議会) が行われる予定となっている。そこで開催都市契約のサインを交わす予定をしている。アジア競技大会の組織委員会も来年 5 月に発足を予定している。
 - ・2026 年にアジア競技大会が開催され、2027 年にはリニア新幹線が開業する予定となっている。その頃には中部国際空港の 2 本目滑走路の整備が期待されている。
 - ・アジア競技大会を契機として、観光や国際交流などの愛知の発展にむけた道筋をしっかりと描いていきたい。そのための方向性や活性化の方策を、本委員会を踏まえてビジョンとして策定したい。名古屋市においても総合計画策定作業に絡めてアジア競技大会を契機としたまちづくりについて独自に検討されると聞いている。しっかりと整合を図りながら、連携して取り組んでいきたい。
 - ・委員のみなさんには、本会議をはじめ今後の大会運営に向けてご支援・ご協力をお願いしたい。
 - ・最近、極端に暑い日が続いており、夏はスポーツができなくなるのではないかと懸念している。ちょうど高校野球の愛知県予選も準決勝が行われているが、応援中に熱中症で倒れる生徒も出ており、自粛してもらうことも必要な状況である。この時期に開催される 2020 年の東京オリンピックでも暑さ対策が課題となる。
 - ・吉田選手には、オリンピックをはじめ様々なスポーツ大会で日本の顔として活躍されており、今後も活躍され愛知を盛り立ててもらえるよう期待している。
- 昇 座 長
- ・名城大学で地方自治、まちづくりを研究している。
 - ・先日行われたロシアワールドカップは世界的にとっても盛り上がった。スポーツは、

様々なイデオロギーや立場を超えてつながりことができる。

- ・アジア競技大会が愛知・東海地域の地域づくりにつながるように、みなさんのお知恵を借りながらビジョンとして取りまとめていきたい。ご協力をお願いしたい。

(委員 自己紹介)

- 来田委員 ・中京大学のスポーツ科学部、オリンピックムーブメント史が専門であることから、今回委員としてみなさんと一緒に検討していきたい。
- 森 委員 ・現在、中部経済連合会では広域のビジョンづくりを行っている。連携を図りながら、今後のまちづくりの検討に活かしていきたい。
- 川原委員 ・愛知県体育協会としては、アジア競技大会が愛知県で開催されるということで、スポーツの振興・発展に資するレガシーが残ると幸いである。ぜひしっかり意見を述べていきたい。
- 吉田委員 ・アスリートの代表として意見を交換させていただきたい。

2 議題

(1) 地域活性化ビジョン骨子(案)について

- ・事務局より、アジア競技大会の概要(資料2)、骨子案、ビジョンの策定に向けた本年度の取り組み(ワークショップなど)等(資料1及び3)について、配布資料をもとに説明を行った。

昇 座 長 ・本日は、第1回の会議ということで、事務局の説明を受けて、愛知・名古屋で開催される大会に向けてどんなことを考えていけばよいのか、ビジョン骨子(案)に対するご意見・ご質問に加えて、愛知・名古屋で開催されるアジア競技大会に向けての個人的な想いであったり、希望であったりを自由に意見交換していただければと思う。

吉田委員 ・私は選手として過去に4回アジア競技大会に参加している。オリンピックのアジア版という印象である。様々な競技の選手と選手村に入り、ともに大会に参加するという経験をすることができた。

- ・オリンピックでは、アテネ大会から女子レスリングが正式競技になったが、アジア競技大会ではそれ以前からレスリングが行われており参加した経験がある。
- ・大会では選手村を体験し、競技を通じて日本代表として頑張ろうという気持ちを感じることができた、また、他国の選手と触れ合うことができるし、特定競技の世界選手権とは違い他の競技の選手と交流もできる独特の雰囲気をもっている。
- ・オリンピックの前に、国際大会に慣れることができる機会でもあった。

昇 座 長 ・アスリートとして求められるサービスなどはあるか。

吉田委員 ・大会中には渋滞による道路の混雑が問題となる。そこで「オリンピックレーン」を設置してバスを優先的に走らせることで選手のスムーズな移動を実現した例もある。また、パトカーや白バイが誘導してくれたこともあった。

- ・対応は大会によっても異なり、毎回行われているわけではないが、このようなサ

ービスは選手としてはとてもありがたい。

- 川原委員
- ・資料3の1にある、スポーツで地域を元気にするという観点はとても大事である。
 - ・トップアスリートの育成も大切だが、そのためには指導者が必要であるし、大会運営の経験者の育成も大事である。こうした経験や人材がその後の遺産としても残っていく。
 - ・スポーツインフラという面では、医科学の専門性を有する施設の整備が欠かせない。県がそうした施設を整備すると、今後のスポーツに発展が期待できる。
- 昇 座 長
- ・8年後ということで、それほど時間があるわけではない。2020年にオリンピックもあるため、そこでの成果と課題を踏まえて対応していくべきである。
 - ・指導者などについても、いまから人事配置など計画的に考えておく必要がある。
- 森 委 員
- ・資料3の骨子案で、視点4のリニア開業を見据えるとある。東京から40分、さらに大阪もつながり巨大な経済圏が構築される。ヒト・モノ・カネが東京に吸い取られるストロー現象を危機感として、大会をどう位置づけるかが大事である。
 - ・地域の方がプライドをもてることを重視してはどうか。アジア競技大会を、住んでいる方が、わが町への誇りや自信を深めてもらえるきっかけとしたい。
 - ・「4つの柱」はとてもいい。ブランディング面では、やはり強さが求められる。残念ながら近年ではプロ野球の球団が弱く、高校野球も東海地域の力が落ちている。やはり強いことが求められる。
 - ・学校教育では、教員の負担も問題になっており、これからは地域で部活を支える地域クラブなどのあり方の検討が必要になってくる。
 - ・観光文化について、スポーツツーリズムの1つとして、ゴルフなども生かしたゴルフツーリズムという取組もある。スポーツと観光を結びつけながら取り組んでいくことに可能性がある。
- 昇 座 長
- ・学校行事における体育クラブには、地域クラブという形のスポーツのあり方が全国的に整備されていない。学校のクラブ活動と地域の関係を整備することは、大きな課題であり、本大会を契機として推進できるといい。
 - ・リニアは、2027年に名古屋まで開業する。新幹線が整備されたとき、新大阪の次は岡山まで開業だった。それがきっかけで岡山市は交通の結節点となり、現在は政令指定都市として広島と覇権を競う都市に発展した。
 - ・西日本の窓口は長らく大阪であり、実際に人や産業の流れは大阪に中心がある。今後、アジア競技大会を好機として、リニアが大阪まで伸びるまでの間に、西日本やアジアへの窓口、「アジアに開かれた都市」としての機能を名古屋に持つてくることができないのではないか。
 - ・例として福岡は成功している。市制100周年に、福岡をアジア太平洋の拠点として位置づけることを戦略として描き、領事館を持ってきて、アジア太平洋に向けた都市づくりを進めてきた。
 - ・リニアの品川―名古屋開業は幸運であり、同時期にアジア競技大会が行われることも、大きなチャンスである。西日本の窓口が、大阪ではなく愛知・名古屋であ

ることをアピールし、中部国際空港の2本目の滑走路にもつながるような戦略を描いていきたい。

- ・大阪では電機産業が衰退しているが、名古屋は自動車産業を中心にものづくりが元気である。ただし、将来どうなるか見通せないで、トヨタグループが元気で、大阪までリニアが開通するまでの間に、西日本・アジアの窓口としての位置づけを明確にしていく必要がある。
- ・大阪出身で、その後名古屋に移り住んできた。東にも西にも行きやすいが、地の利は地域の人にあまり理解されていない。戦略的に強化すべきである。
- ・アジア競技大会の位置づけは認識を共有しておきたい。アジア競技大会の意義をどう理解するのか。オリンピックの研究を行ってきたが、アジア競技大会がオリンピックムーブメントの一環であることがあまり理解されていない。
- ・オリンピックという名称を使えば知名度も上がりやすい一方で、オリンピックブランドの取り扱いにセンシティブにならないデメリットもある。
- ・オリンピックの理念はしっかり受け止めつつ、アジア競技大会であるために縛りがかからない部分を活用したほうがよい。
- ・踏襲すべき理念という点では、オリンピック大会もアジア競技大会も、スポーツが中心であると考えられがちである。しかし、クーベルタン（近代オリンピックを創始した人物）は、ダンスや芸術、音楽などの文化的活動のすべても、人間が調和のとれた存在として成長するツールとして捉えている。それらは、地域活性化のベースになるものである。
- ・スポーツイベントを招致すると、体育やスポーツ以外の部分に光があたらず、せっかくの招致をうまく使えないケースが多い。ビジョンの中に入り込んでこない範囲がある。アジア全体の祭りであるという広い視野でとらえ、招致の前の段階にできあがっている『あいちビジョン2020』とすり合わせを行うことで効率的・合理的な施策が進められると思う。
- ・骨子案の「4つの柱」は、「愛知がどうなりたいか」という視点に絞っていてコンパクトにまとめられている点は良い。
- ・しかし、「愛知がアジアにできること」、「アジアがこうなったらよい」を提案する発信のメッセージが弱い。それをつくることで、先ほど森委員が言われたような地域のプライドが大きくなる。アジアにどのようなことを提案・発信するのかという視点を、ビジョンに入れ込んでほしい。
- ・近年のオリンピックムーブメントの傾向として、目指しているものを紹介したい。スポーツの大会では、キラキラした強いもの、勝者に目が向く傾向にある。一方で、そうした傾向があるからこそ、現在の国際的なスポーツ界は、陰になるところ、スポーツを身近に感じるができないような社会における弱者に光を当てることに力を注ごうとしている。
- ・1980～90年のスポーツに勢いのあった時代から戦略が変わった。より多くの人を巻き込まないと少子化でスポーツそのものが弱体化するという危機感をスポー

来田委員

ツ界は抱えている。そうしたなかで、スポーツに親和性のない人、スポーツをやりたいくてもできない人に、どのようにスポーツを広げるか、スポーツではなくてもスポーツと同じように生きる実感を持てる活動にアクセスできるようにするか、という方向に、スポーツ界の戦略がシフトしていることを意識してほしい。これは、よりよいまちづくりに生かせるコンセプトとしても有用である。

昇 座 長 ・オリンピックムーブメントが、いいまちづくりにつながるという視点である。
・吉田委員は先約があり、14時35分に退席すると聞いているが、とくにご意見はよろしいか。

吉田委員 ・とくに追加はございません。

事 務 局 ※松下委員及び田中委員の意見をご紹介

昇 座 長 ・両委員の意見をご報告いただいた。
・聞かれていて、思われたことなどあればご意見をお願いしたい。
・アジア競技大会概要の地図を見ると、広いエリアから選手・関係者が集まる。産業革命はイギリスからヨーロッパ大陸のフランス、ドイツ、大西洋を渡ってアメリカ、そして太平洋を渡り日本に伝わった。これは今のG7諸国である。日本の明治時代までに産業革命の実現を間に合わせた国が宗主国となり、間に合わなかった地域は植民地となった。
・今は日本や欧米が成長の勢いを失い、経済の中心は、環大西洋や環太平洋から東アジアに移りつつある。その時期に、愛知・名古屋でアジア競技大会が開かれる。20～40年前の大会とは意味がちがう。発展途上国の大会ではなく、発展途上国から新興国に変わろうとしている勢いのある国々のアジア競技大会なので、自動運転などの発展も十分の可能性はある。勢いのある地域の中で行われるアジア競技大会で、技術や社会のつくりかた、福祉であれ、全国や世界に情報発信して、次の時代を感じさせるようにしてほしい。
・札幌での冬のアジア競技大会は、冬季オリンピックにむけた前段階としてのアジア競技大会という位置づけであった。広島のアジア競技大会も広島市が政令市になった証として頑張って、新しい交通機関などもでき、それなりに意味があった。
・今回は違う意味を持たせ、新しい次元・時代に入ることを広く認識し、レガシーとして残るような社会運営や技術などにチャレンジできるとよい。
・ASEAN や中国、インドは、アジア競技大会に臨む意気込みやかける予算は20年前とは全く違うはずなので、それらを活かした大会にできるとまったく違う成果が生まれるはず。

來田委員 ・スポーツともものづくりを結び付ける視点にはもっと工夫の余地があると思う。
・たとえば自動車を作る際には、人間の身体の反応などに関するデータを利用していると思う。スポーツで得られるデータや、スポーツができないような身体状況にどうアプローチするかという発想は、ものづくりに使えるはず。この地方は工学系の大学も多く、検討の対象モデルとして、スポーツと結びつけた新しいものづくり提案などを行い、これを大会を通じてアジアに発信できると思う。

- ・ものづくりとスポーツがうまく結び付けられていないが、そこを考えることで、「愛知県はアジアに何ができるか」という視点にもつながる。
 - ・今回はこれについて検討できるようにデータをご提示いただきたい。
- 昇 座 長
- ・人が走る、飛ぶ、障害者の方が歩くといった人間の動きの分析が、ものづくりに生かせるかもしれない。
- 事 務 局
- ・スポーツのデータをものづくりに生かすという話で、パワースーツの開発が介護分野に生かせるという発想も感じた。
 - ・スポーツ前提に考えると、人間の能力を向上させるようなものづくりに生かせるのではないかという。
 - ・企業が何を考えているのかについては、少し調べてみたいと考えている。
- 來田委員
- ・速さや力強さ、パワーに傾きがちだが、アスリートが毎日スポーツに取り組むのは、身体の心地よさがカギになる。汗をかいて、何かを達成することに心地よさを感じる。楽しくなければやらない。
 - ・長い時間軸で考える必要がある。たとえば、勝ち続けているアスリートは、勝つことをモチベーションにはしなくなる。室伏先生（重信、アジアの鉄人と呼ばれた広治氏の父）は、何のためにやるのかを自分自身で問いかけ、自分自身を高みに持っていくという視点に変わっていったと話していた。その根本には楽しいからということがある。
- 森 委 員
- ・ものづくりとスポーツのつながりについて、関西圏では健康、スポーツに関するものに盛んに取り組んでいる。医療関係やスポーツ産業（MIZUNO など）も多い。ただし、愛知県は体育系の大学も多く、地盤はあると思う。
 - ・当地の弱いところは、IT系のソフト系の人材が弱い。若者や研究者などの人材や産業が集積するまちにすることが大事。スポーツなどとコラボレーションされることで、新しいものが生まれる期待も持っている。
- 昇 座 長
- ・アメリカで株価の時価が高いのはGAF（Google, Apple, Facebook, Amazon）で、4社とも製造業ではない。Appleでさえ実際には設計と販売のみを行っている。
 - ・アメリカは日米構造協議（ジャパン・アズ・ナンバーワンといわれた頃）の後にIT産業で再興した。製造業は新興国に移っていく。自動車産業も同様であり、いつ新興国に移るかわからない。電気自動車ならなおさらである。
 - ・ポスト自動車の視点はもっておく必要があり、GAFのようなITを基盤とした産業を生み出す土壌を作っておく必要がある。これらは、西海岸のスマート（シリコン）バレーの自由な風土のもとで生まれたものである。Google Mapは、アメリカやヨーロッパでの実績があったから、日本でも展開できた。「やってみなはれ」の文化が大事。問題があるから駄目としては、新しい産業は生まれない。GAFは自由闊達な西海岸で生まれている。
 - ・日本はヨーロッパやアメリカに追いつくことは得意だが、0から生み出すことは苦手。自由闊達で実験を許す風土でないと、新しい産業は生まれない。
 - ・そうした土壌がないと21世紀は生き残れない。だから日本は、先進国から発展

途上国になるという見解もある。例えば、かつてアルゼンチンはイタリアから出稼ぎを受け入れるような先進国だったが、今はそうではない。

- ・新しい産業は生む土壌や法制度など整えていく必要がある。21世紀の新産業は、技術があっても社会が許さないと新しい価値は生まれない。
- ・アジア競技大会でアジアから大勢の方が来る。クリエイティブなものは異質な情報を組み合わせた時に生まれる。アジア競技大会は格好の実験の場となる。日本人だけでは新しいものは生まれない。
- ・渋谷のビットバレーでなく、名古屋でやろうという風土づくりが大事。アジア競技大会を契機として、多様な人が集まり、新しいアイデアが生まれる場所となるようにしてほしい。

3 その他

昇 座 長

・本日は、たくさんのご意見を頂戴することができた。

・議事次第には「3 その他」とあるが、事務局から何か連絡はあるか。

事 務 局

・次回の有識者会議については、今回のご意見等を踏まえ、地域活性化ビジョンの中間案を作成し、その内容について、ご議論いただく予定である。

・なお、次回の有識者会議の日程は現在調整中であり、追って連絡する。